



目的 「米沢トンネル(仮称)」の早期実現や、利用者の減少が続く県内の鉄道の維持・発展を図るためには、山形新幹線を軸に、在来線各路線等も含め、県内全域にわたって、鉄道の利用拡大及び駅を中心とする地域の活性化に取り組む必要がある。

このため、沿線活性化の取組みを広く発信することで、県民の取組みへの参加を促し、「地域の鉄道を大切にしよう」というマインドを醸成して、鉄道及び駅からの二次交通の利用を促進する。

ターゲット 県民、本県への来訪者(ビジネス、観光等)

ポイント 沿線活性化プロジェクトの取組みに限らず、駅周辺でのイベントなど沿線活性化につながる事業について幅広く情報を発信(県HP上に、駅周辺の旬の情報を一括して掲載するページを作成)

他部局との連携 広報のターゲットや分野に応じて関係部局と連携し、効果的にPRするためのノウハウを共有したうえで情報発信を行う。

- 子ども達に鉄道に親しみを持ってもらうための取組み(沿線活性化イベント、鉄道利用体験)のPR (しあわせ子育て応援部、教育局)
- ビジネス活性化の起点となる駅直結のコワーキングスペース等を活用した取組みのPR (産業労働部)
- 観光イベントや山形駅西口のにぎわい創出イベント等の相互の情報発信及びイベント時の鉄道利用のPR (観光文化スポーツ部)
- プロジェクト推進協議会のワーキングチーム(村山・最上・置賜・庄内)の取組みのPR (各総合支庁)

取組項目

目標指標: 県HP、SNS等での情報発信回数 30回

- やまがた鉄道沿線活性化プロジェクト推進協議会(県、市町村、商工・観光関係団体、JR、東北運輸局)における協働での情報発信**
 - 協議会の構成機関・団体が実施する取組みについて、HPやSNS等でPR
 - 駅周辺でのイベント開催時に、チラシやHP等で鉄道等の利用を呼び掛け
 - 各観光地への公共交通機関によるアクセス方法等について、HP等でPR
- 大学との連携による情報発信**
 - 若者に鉄道を自分ごととして捉え、利用促進に繋がる活動を展開してもらうため、課題の洗い出しや活性化案等の検討を行うワークショップを開催
 - 広報ツールの制作(プロジェクトのロゴマーク、ポスターのデザイン等)
- JR東日本との連携による鉄道沿線活性化に向けた情報発信**
 - 包括連携協定に基づく事業の実施に当たり、共同でプレスリリースを実施

広報計画 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

① プロジェクト推進協議会における協働

協議会の構成機関・団体のHPやSNS、広報紙等を活用した、沿線活性化イベントの周知、取組みの成果のPR

- (主な取組み) ○ 駅周辺の賑わいづくり(駅前でのイベント開催、駅周辺における人が集まる施設の整備)
○ 未来を担う子ども達の鉄道利用の拡大(遠足・社会科見学等の際の鉄道利用体験)
○ 各駅周辺のコワーキングスペースを活用したビジネスイベントの開催 等



駅周辺でのイベント開催時におけるチラシ・ポスターやHPでの鉄道等の利用の呼び掛け(時刻表の掲載、リンク貼付)

県や市町村のHP等での各観光地への公共交通機関(鉄道、バス等)を用いたアクセス方法等のPR

② 大学との連携

若者による鉄道の沿線活性化、利用拡大に向けたワークショップの開催

学生発案による広報ツールの制作(プロジェクトのロゴマーク、ポスター、チラシのデザイン 等)

公共交通の利用を促す広報戦略の検討

③ JR東日本との連携

「山形県内の鉄道沿線の活性化等に関する包括連携協定」に基づく共同でのプレスリリース
鉄道による荷物輸送、駅周辺でのイベントの開催



県政テレビ
・
県民のあゆみによる活動成果等のPR

鉄道沿線活性化プロジェクトの情報発信